

「おおた子育て家族応援ネットふぼれん」の ビジョンと子育て家族応援に関する基本的方向

2011年1月改定

▽子どもと子育て家族をベースに、新しい形のまちづくり「プロデュース団体」

ふぼれんは、①「社会貢献と社会改革を相乗的に推進する市民ネットワーク団体」であると同時に、②「大田区の子どもと子育て家族とその応援者にとっての必要不可欠な組織となる」ことを目標としている団体です。さらに付け加えるならばこの間、③「子どもと家族をベースにした新しい形のまちづくりをめざすプロデュース団体」として育ってきました。「まちをプロデュースする」とは、④新しいまちづくりのための企画の立案、⑤会費および寄付などの資金の調達、⑥人材の発掘とその組織化、⑦政策の提案およびそれを実現のための⑧運動全般をさします。

1) ふぼれん会則で規定されている目的の12項目をまとめると以下のようになります。

- ① 子どもと子育て家族に関係する事柄へのさまざまな働きかけ。
- ② 障害児とその家族に関係する事柄へのさまざまな働きかけ。
- ③ 男女平等推進に関係する事柄へのさまざまな働きかけ。
- ④ 成熟した市民社会の実現に関係する事柄への自治体と区議会への働きかけ。

2) 当面の課題と目標（展望）およびスローガン

- ① 子育て家族応援イベントがまちをかえる。
「おおた・子育てわいわいフェスタ」をベースとした活動の展開。
- ② ネットワークから生み出されるさまざまな新しい発想の展開。
「大森&山王・子育てのまちづくり懇談会」づくり。
「大田区子育て応援員制度」の提案と実現。
- ③ 公共の担い手を市民と市民団体にゆだねることのできる新しい自治体の創造。
「市民運営によるグループ保育室」の制度化の実現。
「障害児の学童クラブと発達障害児の居場所」づくりと行政との連携。
「市民運営による小学校内での学童クラブ」の運営と子どもたちのゆたかな放課後の実現。
- ④ 社会的信用・信頼と将来を展望できる組織づくりのあり方の研究と財源づくり。

▽「社会貢献と社会改革」の統一と「連帯と調和」の促進

ふぼれんは、「子育て家族の応援」を第1の目的として、社会貢献と社会改革を一体のものとしてとらえて活動をしています。6月のわいわいフェスタ（構成125団体、3700人参加）と11月のヤキイモつくろう会（30団体で構成、500人参加）の2大イベントを中心に、アルプス夏のキャンプなど、子どもたちのダイナミックな育ちに関する取り組み、家庭型グループ保育室としての「ちきちき保育室」の運営、新しい公共をベースとした自治体づくりのための各種講座の開催、区議会議員と市民団体による意見交換会や大田区関係部局との懇談の開催などを展開しています。そしてなによりも考え方の違う人々が、連帯と調和のスローガンをベースにしたネットワークのもと、それぞれの団体・個人の思いを大切に、新しい大田区をつくります。

▽構成員の感動と喜びを生み出すことのできる活動の展開。

ふぼれんは会則第4条「目的」の前文で「この会は、考え方の違いを認めあい尊重し、運営にあたるすべての人がひかり輝くことをめざします」と明記しているように、どのような取り組みも、①構成する団体および個人が、一丸となって取り組める内容を追求しています。②どのような取り組みも、ボランティアを含め、そこに参加するすべての人が感動と喜びを感じられるような運営のあり方を研究・実践しています。③それぞれの取り組みが、地域や大田区を「かえる」と実感できる内容に高めていく努力を日常的に追及しています。④できるだけ多くの取り組みが、市民団体および市民による新しい社会システムの創造となるよう心がけて活動しています。

▽ふぼれんの組織と財政

ふぼれんは、保育園・学童クラブの父母の会が30、企業・NPOなどの一般子育て家族応援団体が30の合計60の団体で構成（10年12月現在）されています。財政規模は年間1千万円（ちきちきを含む）、NPO法人ではなく任意団体として、スタッフ全員が無償のボランティアとして活動しています。JR大森駅東口の大森銀座商店街のなかに事務所を構え、助成金に頼らない組織のあり方を研究・実践し、会費収入のみで運営できる組織づくりをめざしています。また「NPO法人ふぁみりーサポートちきちきネット」をつくり「ちきちき保育室」を開設、世代を超えた保育者集団をつくり、新しい形の「家庭型グループ保育室」を運営しています。

▽国政に対して

「午後7時には家族そろって夕食を食べられる社会の実現」を掲げています。政府が掲げているワーク・ライフ・バランスだけに頼らず、労働時間の短縮こそ子どもと家族を守りぬけるスローガンだと考え、広く多くの方にその実現を呼びかけています。ふぼれんは全国組織である「新しい公共つくる市民キャビネット」に参加、子ども・教育部会の座長団体として、政府に対してさまざまな政策を研究・提案しています。また各省庁との懇談会の開催も重視し、市民団体ができる新しい公共的事業の提案をし続けています。

▽大田区に対して

「だれもがゆとりをもって、安心して子どもを産み・育て・働き・暮らせることと、子どもたちが毎日楽しく、心ゆたかに生きいきと力強く育つことのできる大田区のまちづくり」（会則の第4条）を「子育て家族応援日本一のまちづくり」と表現して、さまざまな政策を提案、実現させてきました。行政（働く職員を含む）・区議会（区議会議員）・企業・学校・自治会などと連携・連帯して、大田区にふさわしい子育て家族応援の仕組みづくりを提案し続けます。

▽区内の子育て家族応援団体に対して

ネットワークを構成する団体同士の特長を最大限に生かすことのできる「新しい形のネットワークの創造」を提案しています。「わいわいフェスタ」や「ヤキイモつくろう会」などを通じて結びついた多くの団体・個人と連携・連帯して、団体同士による支えあいの仕組みづくりや、相乗効果を発揮できるネットワークのあり方を研究し、実践のなかで生まれた新たな経験を広く区内に広げ、また全国に発信できるように心がけています。